

科目番号	科目名	配当年次	授業形態	単位	担当教員
K204	地方自治論	2年	講義	2	新垣二郎
授業概要 わが国では、国・都道府県・市区町村という3層の政府レベルを通じて多様な行政サービスが展開されています。これらの活動は、「ゆりかごから墓場まで (from the cradle to the grave)」と言われるように、我々が生活する上でのほぼ全ての場面に影響を及ぼしていると言っても過言ではありません。本講義では、近年の地方創生や分権改革など、公共領域における様々な動きを適切に理解するために必要となる、わが国の地方自治の制度や歴史、実態などの諸点について、主に政治学・行政学分野における概念と議論を土台としながら多角的に解説していきます。					
到達目標(学習の成果) 地方自治に関する基本的知識や歴史的経緯、および現状における意義と課題などを総合的に理解することで、受講生自らが、今後の国・都道府県・市町村の役割分担や関係性のあり方等をどのように見直すかという論点について、主体的な考えを展開できるようになることを目標とします。(DP3)					
授業計画					
回	表題	学修内容			
1	概論①: 地方自治とは何か	講義の進め方や評価方法等について説明するとともに、国家における統治の手法としてなぜ地方自治が重要であるかを解説していきます。			
2	概論②: 理論と制度	地方自治の理念やわが国の地方自治制度の特徴について、諸外国との比較を視野に入れながら解説していきます。			
3	概論③: 自治体の実像	都道府県と市町村という2つの地方自治体に関する制度の画一性と実態の多様性について、様々な角度から捉えていきます。			
4	概論④: 歳入・歳出構造	地方自治体の活動を規定する歳入がどのような体系で確保されているかや、どのような分野の活動に支出されているかを俯瞰的に捉えていきます。			
5	歴史①: 戦前の地方制度	明治時代における近代国家の成立から戦時体制に入る前までの期間で、地方自治制度がどのように形成されてきたかを解説していきます。			
6	歴史②: 戦時体制と戦後改革	戦時体制から戦後改革期までの期間で、地方自治制度がどのように変化・刷新されたかを実際の動向を基に解説していきます。			
7	歴史③: 占領政策と改革反動	GHQによる戦後改革のインパクトや講和独立周辺期における反動的改革の内容について詳述していきます。			
8	歴史④: 高度経済成長期の変化	地方自治制度の安定期に入って以降の動きについて、主に地域開発をめぐる政官関係と中央地方関係を素材としながら解説していきます。			
9	歴史⑤: 低成長と行政改革	公害問題に端を発する革新自治体の登場と衰退や、オイルショック以降の慢性的財政危機下における行政改革のムーブメント等について概説していきます。			
10	歴史⑥: 地方分権改革の進展	地方分権改革の推進が国政レベルにおいて政策課題として浮上した背景的要因や具体的な改革の実現手法等について詳説していきます。			
11	展望①: 「住民—自治体」間関係	自治体行政への住民参加のあり方について、その具体的な方法論やNPO・町内会等の実際の活動等を踏まえながら解説していきます。			
12	展望②: 「自治体—自治体」間関係	自治体の垂直・水平レベル両面における連携手法や合併政策の功罪などについて多角的に解説していきます。			
13	展望③: 「中央—地方」間関係	中央政府と地方自治体間における権限・財源の配分問題について、昨今の大都市制度や道州制の議論を引き合いに出しながら捉えていきます。			
14	展望④: 「政府—市場」間関係	政府部門による公共領域の管理体制に内在する問題を市場原理の導入によって解決を図ろうとする一連のNPM的改革の内容を俯瞰していきます。			
15	講義の総括と復習	各回の講義内容についてポイントを押さえながら概説していきます。			

準備学修(授業外の自己学修)

特に規定を設けませんが、なるべく日常的に地方自治に関するニュースに触れるよう努めて下さい。また、各回の講義に臨む際には、事前に前回の講義内容をよく確認しておいて下さい。

成績評価の方法・基準(%表記)

①出席・授業態度(リアクションペーパー等):40%、②期末試験:60%とします。

観点	S	A	B	C
地方自治に関する基本的知識や歴史的経緯、および現状における意義と課題	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

教科書

特定の教科書は指定しません。

参考書等

以下に挙げるものはあくまでも参考文献であり、あらかじめ購入しておく必要はありません。いずれか興味のありそうなタイトルの書籍があれば、まず書店や図書館で手に取ってみてください。

- ・岡本全勝『新地方自治入門—行政の現在と未来』(時事通信社、2003年)
- ・新藤宗幸・阿部齊『概説日本の地方自治(第2版)』(東京大学出版会、2006年)
- ・磯崎初仁ほか『ホーンブック地方自治』(北樹出版、2007年)
- ・伊藤光利編『ポリティカル・サイエンス事始め(第3版)』(有斐閣ブックス、2009年)
- ・柴田直子・松井望編著『地方自治論入門』(ミネルヴァ書房、2012年)

履修上の注意・学修支援

各回の講義は、講師が用意した powerpoint 資料を基に進める予定です。各回のテーマはあくまで目安であり、講義の進捗状況や受講生の関心等によって変更する場合があります。

リアクションペーパーは出席状況を確認する意味も含まれますので、毎回の講義ごとに配布・回収します。講義内容に関して質問がある場合はこのペーパーに記入して下さい。可能な限り次回の講義で返答していきます。なお、名前・学籍番号等の基本情報以外の部分を白紙で提出した場合は欠席扱いとします。